

環境リスク・マネジメント



*1 リスク・マネジメント・システム：グループ会社までを対象としています。荏原の各カンパニーでリスクを包含する案件を審査し、リスクの大きさに応じてカンパニーレベル、全社レベルで対応するようにしています。

*2 IRCA：国際審査員登録機構。マネジメントシステム審査員の国際登録機関。

*3 CEAR：(社)産業環境管理協会 環境マネジメントシステム審査員 評価登録センター

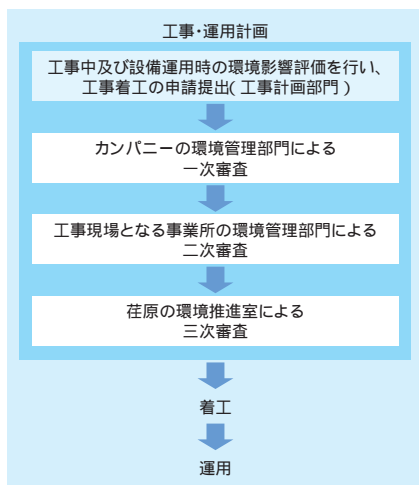
環境審査・環境監査

全社的なリスク・マネジメント・システム^{*1}（RMS）のもと、荏原グループでは環境汚染事故をはじめとする環境リスクの回避や低減のために、環境審査・環境監査を実施しています。

環境審査

社内の生産設備、試験・研究・開発設備、事務所・事業所や厚生施設などの新設、改修、撤去等の工事やそれらの設備、施設の運用には、廃棄物や排水の発生、資源や化学物質の使用、騒音や振動の発生など、様々な環境への影響が伴い、敷地外の周辺地域にまで及ぶ場合があります。そこで、こうした工事の計画段階で環境リスクの低減を図るための環境審査を行っています。

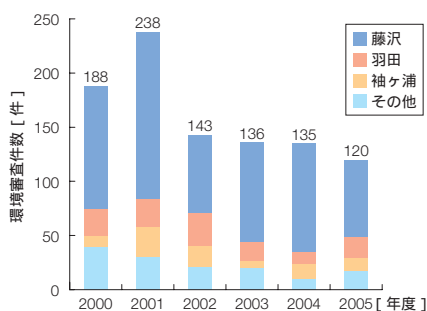
工事と運用の段階における環境影響評価、計画の不備、環境法規制や労働安全衛生法、建築基準法などの関連法規の順守などについて、以下のプロセスで3重にチェックしています。



2005 年度環境審査

2005 年度の審査件数は 120 件でした。このうち 68 件について工事計画の変更指示等を行い、環境負荷低減と環境関連法規順守を徹底しています。

環境審査件数



環境監査

荏原グループの環境監査は、会社や事務所・事業所ごとに行う第 1 者監査、荏原の環境推進室が実施する第 2 者監査（「コーポレート環境監査」と呼ぶ）、外部審査登録機関による審査「第 3 者審査」の 3 重の環境監査を実施しています。

環境監査員の養成

コーポレート環境監査の監査チームは、IRCA^{*2} 認定の環境審査員養成コースを修了した、CEAR^{*3} 環境審査員有資格者で構成しています。2005 年度末現在の荏原の CEAR 環境審査員有資格者数は 31 人で、コーポレート環境監査の場で知識と経験を積んでいます。

主任審査員：3 名

審査員：3 名

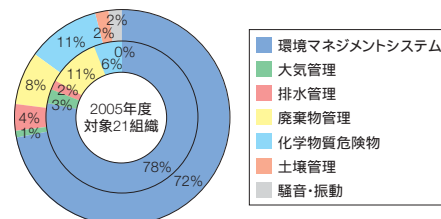
審査員補：25 名

2005 年度環境監査

第 1 者監査は、各社、各事務所・事業所ごとに決められている監査プログラムに沿って実施しました。コーポレート環境監査は、荏原グループの環境リスク・マネジメントと環境法規制順守の徹底、会社経営に関連する環境マネジメント活動の推進、ISO14001：2004 年版への対応状況の確認、環境監査の質的向上を目的として荏原グループ 21 組織に実施し、監査の時点で法違反は確認されませんでした。

また、第 3 者審査では、ISO14001：2004 年版への切り替えを認証取得組織すべてで完了しました。

2005 年度コーポレート環境監査 指摘事項内訳 (総指摘件数に対する比率)



円グラフ内部:荏原
円グラフ外部:グループ会社

緊急時対応

環境に対するリスク・マネジメントの中には、緊急事態への備えが含まれます。各事務所・事業所やグループ各社の事業内容に応じて、環境リスクの要因を想定し、事業活動の特色に配慮した緊急時対応の体制を整えています。

工事現場における緊急時対応

(株)荏原由倉ハイドロテック
(株)荏原由倉ハイドロテックは、全国で多数のポンプ等風水力設備工事を担当しています。工事現場により規模や作業内容は様々で、それぞれに応じた緊急事態を想定します。工事のトラブル等により工事現場エリア外に及ぼす環境影響に備え、環境と安全の両面で緊急時に対応する仕組みを整えています。工事着工前にその工事現場で起こりえる緊急事態の対応または緩和措置を検討し、工事現場において教育や訓練を行います。各工事現場の「環境パトロール」で、教育訓練の内容等を確認し、不備があれば改善指導を行っています。道路冠水を防ぐために雨水を集水して河川に排水する雨水排水機場でのポンプ更新工事では、降雨時に集水した雨水を河川へ放流するためのゲートを迅速に開放できるように訓練を行っています。ゲートを短時間で安全に開放するため、開閉操作に必要な電気工具の固定台を設置し、開放操作方法を身につけるようにしています。また雨天予報時には携帯電話を活用した緊急出動態勢を編成しています。

薬品工場での緊急時対応

荏原エンジニアリングサービス(株)
千葉県袖ヶ浦市にある薬品工場には8つの薬品製造タンクがあり、タンクから薬液が大量に漏れた事故を想定した「緊急事態対応手順」に沿った訓練を毎年1回実施しています。ま



薬品漏洩を想定した訓練

た、導電率感知の警報機*4を設置し、作業員がすぐ漏洩に気付く体制を整えています。

その他、薬品輸送時の転倒や漏洩事故に備えて、運転手に「災害拡大防止措置」を示した通称「イエローカード」を携帯させています。



排水への油混入を想定した緊急時対応

中部リサイクル(株)
焼却灰の熔融再生事業を行っている中部リサイクル(株)では、塩類を含んだ熔融飛灰を工業用水で洗浄し、その排水中の重金属類やダイオキシン類を排水処理設備で除去し、排水基準をクリアした状態で、大江川に放流しています。構内での機械類の潤滑油、タービン油、重機の油や軽油が排水に混入し排水処理設備へ負荷をかけることを緊急事態として想定し、対応訓練を毎年1回、実設備を使って実施しています。油を吸着するマットの使用方法や効果などを確認しました。



吸着マットによる油除去



油除去教育訓練風景



*4
導電率感知の警報機：導電率は迅速に測定でき、また薬剤を感知すると導電率は高くなる性質があります。この性質を利用し、導電率が設定値を越えると警報機が鳴る仕組みになっています。

